

令和2年度 保健体育科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

- 授業評価アンケートの結果では、全学年において、全ての項目で80%以上の生徒が肯定的な回答をしている。昨年度から全学年において、全ての項目で肯定的な回答をしており、学習カードの活用や、ICT機器を活用した協働学習を取り入れている。
- 日頃の授業の様子や昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査のアンケートにおける記述から、次の2点の傾向があることが分かった。運動が得意な生徒と苦手な生徒の二極化の傾向が強い。日常生活の中で、運動部に所属していない生徒の運動量や時間、頻度が少ない。

②課題

- ①主体的に運動に親しもうとする意欲・態度を育成する。
- ②運動が苦手な生徒も体力向上に努める授業環境を整える。

③具体的な改善策（「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善）

- 保健の授業や体育理論を通して、生涯にわたって運動に親しむ態度の育成や、中学生の時期に運動をすることで今現在が一番発育する時期だということを理解させ、主体的に課題に取り組む生徒の育成を図る。
- 体育の授業では、生徒自身が目標設定をしたり、互いに競わせたりすることで自然と対話的な会話や自他を認める態度を育み、知識のより深い定着や主体性を伸ばしていく。
- ICT機器を活用し、互いの動きのポイントを確認し合ったり、助言し合ったりするという協働学習を取り入れ、個に応じた課題に取り組みせていく。